

## はじめに

---

本書は当初、DHstyle で連載した内容をまとめるはずでした。しかし、連載終了から臨床は進み、院内におけるメンテナンスのあり方が深化したと合わせて、多くを書き直してアップデートしました。

重視したのは、実際に行っている手技・手法を具体的に解説することです。自身の臨床を包み隠さず、公にお披露目するのは覚悟のいることです。しかし、読者皆様の臨床に直結する書籍となることを願い、このたび勇気を出して執筆いたしました。そのため、私見も多く述べておりますが、その考えに至る先人・諸先輩方の知見（文献）や、臨床経験から学び得た知恵をバランスよく織り交ぜた1冊に仕上がったと思っています。

筆者は、歯科にかかわるすべての職種や立場の方に本書をお読みいただけたらと願います。なぜなら、メンテナンスは歯科臨床を支える役割を担い、他の診療とうまく機能するシステムは、チーム一丸となって考え築くものだからです。メンテナンスの存在価値は、臨床の有効性（予防管理）だけではなく、経営面（継続来院）の視点でも、チームで議論されるものでしょう。その手引き書として、本書がお役に立てれば幸いです。

片山章子